

フリースクールでの SW 実践を考える②

高名 祐美

新しいチャレンジへの戸惑い

MSWという仕事を卒業し、新しいフィールドでソーシャルワークの仕事がしたいと挑戦した職場が「フリースクール」。そのフリースクールで、働き始めて10か月になる。フリースクールのこともよくわからないままに、飛び込んだ場所。不登校の子どもが過ごす場所、その程度の理解で、自分ができることをみつけようと漠然と思っていた。しかし、どうだろう、なんだかもやもやとしている。そんなことを文字にしてみようと思う。

最初は、生徒が1名もいなかった。私が採用されたのは、通っていた生徒がフリースクールを卒業した直後だった。次の利用者を待っていたが、希望はあってもなかなか実際の利用に結び付かない、通ってくる生徒はいない日々だった。

管理者が語るフリースクールのビジョンを聴きながら、自分の役割を模索する。子どもへのソーシャルワークはこれまでの経験のなかで数えるほど。学校に行けない、パワーレスな状態の「子ども」と向き合って、私に何ができるのだろうか。そんな戸惑いが常にあった。併設されている学童で、子どもと関わる日々。「子どもの世界」に少しずつ慣れてきたころ。相談から利用に結び付いて、フリースクールに通ってくる子どもがひとり・ふたりと増えてきた。そして私の勤務は週1回から3回となった。

ジェノグラム面接

利用希望の相談があったら、管理者から相談面接を依頼される。日時を設定し、お母さんに来所してもらう。そして私が面接をする。その際ジェノグラム面接を実施している。「〇〇さんのことをわかりたいので、〇〇さんの家族についてまず教えてください。」と説明すると、協力的に話してくれる。ジェノグラムを一緒に描きながら、家族ひとりひとりのことを話してもらう。必ず聴くのは、子どもの名づけについてだ。どんな思いで、誰がつけたのか。不登校になっている子どもと兄弟姉妹の名前や生年月日、名づけの由来を聴いていく。日々の暮らしの様子、食事の時間や内容、両親の兄弟姉妹や祖父母のこと、仕事のことなど聴いていく。そうする

と、家族の暮らしぶりがみえてくる。そして子どもが不登校にいたった経緯を聴く。お母さんは、たまっていたものを吐き出すように、次から次へと語ってくれる。時に自分のかかわりを責めたり、他の家族との関係性を語ったり、学校とのつながりを語ったり。ジェノグラムを前に、たくさんのことがわかってくる。どんな家族構造の中で、不登校という課題を抱えた子どもが日々生活しているのか。少しずつ見えてくる。

利用に向けて

お母さんとの面接内容を整理して、記録にまとめる。ジェノグラムも情報を加えて仕上げていく。その内容を管理者・ほかのスタッフに伝えていく。そしていよいよ、当事者である子どもとの面接になる。初回はお母さんが同席する面接になることが多い。私の質問には、お母さんの顔をじっとみつめて助けを求めるようにしたりする。言葉がなかなか出てこないことも多い。言葉以外のノンバーバルメッセージを受け取ろうと、五感をとぎすます。この子の強みはなんだろう、今の暮らしをどう感じているのだろう、これからをどう考えているのだろうなど思いを巡らす。そして、フリースクールでどんなふうに一緒に過ごしていこうかと考える。

子どもと過ごす時間の工夫

私の勤務するフリースクールは、週2回9:00~14:30が定期利用である。しかし、朝起きられず、決まった時間に登校してこない。週2回の登校も、ままならない。

頑張って登校してきたら、今日の過ごし方を話し合い、その日の時間割を作成する。学習と好きなこと、やりたいことを組み込んでいく。一日の終わりには、今日の出来事とやってみた気持ちを書いてもらう。そして、次回取り組むことを話し合っていて決める。だいたいそんなふうに過ごしている。やりたいことがなかなか出てこない。しかし、時に「体をうごかしたい」とか「写真を撮りたい」「料理をしたい」と出てくる。その言葉を実現できるよう、管理者と話し合い、準備をする。子どもが真剣にたこ焼きづくりをしたり、パンケーキをきれいに焼いたり、体育館を走り回っている姿を見ることで、次への意欲が湧いてくる。得意なこと、持っている力をみつけ、自信につなげていければと思う。

何かを変える

“多くの「不登校」や「ひきこもり」の人にとって、「克服しなければ始まらない」も、「克服すればその先はバラ色・・・」、これは共に誤解。実際には次の課題が現れるだけ。だからとりあえず前進すれば良い。変えればいい。”

団士郎先生のワークショップから学んだこの言葉は常に念頭においている。

子どもが学校に行けなくなっている、行かなくなっている。これからどうしていけばいいのか。カウンセリングを受けたり、病院に受診したり、友人に相談したり、ネットで情報を集めたり……。様々な方法を試して、それでも不登校という現実には克服できない状況で、相談に訪れる。なんとかしたい、このままでいいはずがない。しかし、現実の生活を変えることがなかなかできない。変わらない。私は、家族の暮らしぶりをお聴きして、少しだけ前に進む方法を考えてみましょう、何ができそうですかとお母さんに伝える。今までやったことのない何かをみつけて試してみることができたら、少し前に進むことができるのだと思う。

写真が好きで風景を撮りたいと、カメラをネットオークションで買ったももちゃん。時間をかけて探し、お小遣いで買ったそのカメラを首からかけて登校してくる。雪景色や雪遊びをするほかの生徒を撮って、その画像をみせてくれる。「この空、ハートみたい」「この笑顔、可愛く撮れた」。その笑顔に私も元気をもらう。このフリースクールが、ももちゃんにとって心地よく安心して過ごせる場所であればと思う。